

部隊の現況を把握 企図の徹底を図る



第717号
平成27年5月29日

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面総監部広報室

総監要望事項
即 応
錬 磨
信 頼

北部方面隊
ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsd/nae/index.html>

北部方面総監初度視察

北部方面総監岡部陸将は、4月14日から23日にかけて、札幌駐屯地、東千歳駐屯地、旭川駐屯地、真駒内駐屯地及び自衛隊札幌病院に対する初度視察を行った。

重要な機会となった。14日、札幌駐屯地では、方面通信群、方面会計隊、

方面情報隊、札幌駐屯地業務隊、総監部付隊を対象に、総監部が所在する駐屯地の特性と各部隊の現況について視察した。15日、東千歳駐屯地では、第7師団、第1高射



巡閲（4月23日：真駒内駐屯地）



第1陸曹教育隊の視察（4月15日：東千歳駐屯地）



営内居室を視察（4月14日：札幌駐屯地）



自衛隊札幌病院の施設機能を視察（4月17日：真駒内駐屯地）



第2特科連隊自衛官候補生課程教育の視察（4月22日：旭川駐屯地）

特科団、方面混成団、第1電子隊、指揮所訓練支援隊、東千歳駐屯地業務隊を対象に、陸上自衛隊唯一の機甲師団を核とした同駐屯地の各部隊の現況について視察した。また、方面混成団隷下の第1陸曹教育隊の第1、2、6期陸曹特技課程（軽火器・迫撃砲）教育の現場

を視察し、方面隊の次世代を担う陸曹候補生の教育状況を確認することも、基本教育を担任する責務の重大さについて教育担当者へ徹底を図った。17日、26年度末に開院したばかりの自衛隊札幌病院では、病院内の各施設の視察を行い、新病院の機能を確認することも

に、病院全職員に対し、北部方面隊唯一の自衛隊病院として最高の専門治療を行う役割を認識し、新病院の戦力化、各部隊の即応性維持への支援、良質な医療提供、方面隊内の衛生科隊員の育成に尽力することを訓示した。22日、旭川駐屯地では、第2師団、旭川駐屯地業務隊、旭川地方協力本部を対象に、日本最北に位置しロシアとの国境を接する第2師団を核として、隊務運営を行う同駐屯地の現況を確認した。

各駐屯地等における隊員に対する訓示では、昨今の国内外情勢及び防衛省・自衛隊に対する国民の期待を踏まえ、北部方面隊として「即応」「錬磨」「信頼」の要望事項について徹底を図った。

日米の 予備自衛官 予備役制度 を相互に理解 在日米陸軍上級予備役アドバイザー来訪

方面隊は、5月15日から16日までの間、在日米陸軍の部隊研修として、在日米陸軍の予備役

に関する業務を担当する上級予備役アドバイザーのドレイバー大佐と予備役室上級曹長のデビーン上級曹長の訪問を受けた。

16日は、東千歳駐屯地において、第52普通科連隊が行う即応予備自衛官招集訓練を研修し、隊員の練度に応じた訓練実施要領について関心を示していた。また、訓練後の即応予備自衛官との懇談では、ドレイバー大佐から「なぜ志願したのか」「勤務先の会社の理解はどうか」等の質問が出ることも、即応予備自衛官からも「米軍の予備役隊員のモチベーションはどのように保っているのか」等の質問が出され、丁寧な答えなど双方から積極的なやりとりが交わされ、有意義な懇談となった。



東千歳駐屯地で行われた即応予備自衛官の訓練研修

本研修により、陸上自衛隊の予備自衛官制度と米陸軍の予備役制度に関する相互理解を深め、日米の信頼をより強化することができた。



即応予備自衛官との意見交換会

訓練最盛期に向け訓練環境を充実・整備!

平成 27 年度北部方面隊演習場 春季定期整備



北海道大演習場において整備状況を確認する総監

方面隊は、5月8日から20日までの間、各師団・旅団長及び直轄各部隊長を整備担当者として、演習場春季定期整備を実施した。

演習場定期整備は、陸上自衛隊・方面隊としての道場の維持・充実のため、実戦的かつ効率的な訓練環境のさらなる充実を図ることを目的とし、北海道内の北海道大演習場、矢臼別演習場、上富良野演習場、然別演習場及び鬼志別演習場の整備を主体に、長期構想・中期計画に基づき、実施するものである。

春季の定期整備は例年残雪がある中で行っているが、今春の北海道は全

般に気温が高い日が続き、雪解けも早く、計画どおり整備は終了した。

この間、各部隊は、編成に応じた建制を保持し、命令により行動を律し、実行を確認するとともに、作業工程管理や進捗状況に応じた計画の修正を行う等、指揮幕僚活動を実践した。また、先任上級曹長を活用した現地指導や作業に応じた安全教育等により、各隊員に対する基礎動作の徹底を図った。

道内の各演習場は、道場としての機能を維持・充実し、各部隊の錬磨の環境が整い、訓練最盛期を迎える。

第2師団

第2師団は、第1特科団、第1高射特科団、北部方面後方支援隊の一部の配属・支援を受け、上富良野演習場及び鬼志別演習場春季定期整備を担当した。

上富良野演習場は、普通科部隊を主体とした戦



近接戦闘訓練のための新設道路開通工事 (上富良野演習場)

設置等の通信基盤の新設、車両などの機動路の整備を行い、近接戦闘訓練 (ITESC) 基盤の充実を図った。通信基盤の新設については、平成26年度春季から行われ、約2.6kmの光ケーブルの延長と側柱約30本を新たに設置した。これにより、延べ約15kmの光ケーブルが構成さ

團規模の近接戦闘訓練と中距離の特科の射撃が可能であり、これらにより実戦的に行うため、5カ年にわたり充実整備を行う計画である。今回の整備は、昨年度の秋季定期整備に引き続き、訓練の支障となる樹木の伐採、光ケーブルの



電柱の側柱取り付け工事 (上富良野演習場)

れ、通信基盤整備は計画に基づき、着々と進行している。特科火砲陣地整備においては射撃の支障となる樹木を伐採し、より実戦的な射撃を追求できる基盤を確立した。

鬼志別演習場においては、戦闘射撃の射座及び監視の整備を行い、普通科部隊等により実戦的な戦闘射撃を追求し得る基盤を確立した。

北海道大演習場は、戦闘と特科・戦車火力等を連携させた総合戦闘力発揮が可能な訓練を実施するために、今回の整備を計画しており、今年度の整備では、昨年度に引き続き、第1・第2戦車射撃場の機動路に強化資材「テラセル」を設置し、戦車の躍進

北海道大演習場は、戦路を拡張するとともに、平面化した「テラセル」による強化は平成25年度から、毎回長さ約100m幅約10mの強化を行っている。戦車射撃場の基盤整備は、計画に基づき、着実に推進している。更に、視界を確保するための支障となる樹木の伐採を行い、実戦的な戦車射撃を可能とすべく整備を推進した。



戦闘射撃場の強化資材 (テラセル) の設置 (北海道大演習場)

第7師団

第7師団は、隼下部隊の他、第1特科団、第1高射特科団の一部、北部方面混成団主力、北部方面衛生隊、北部方面対舟艇対戦車隊の配属・支援を受け、北海道大演習場の春季定期整備を担当した。

北部方面施設隊は、北海道大演習場、矢臼別演習場の春季定期整備を担当した。

方面施設隊は、北部方面最大の施設部隊であり、油圧ショベル、中型ドーザー、グレーダー等の施設器材やダンプ等の運搬力を駆使し、演習場整備の骨幹部隊として、北海道大演習場と矢臼別演習場の装軌車道の改修整備等、施設部隊の高い技術力をもって専門部隊ならではの緻密かつ大規模な整備を行った。

矢臼別演習場においては、装軌車道に約30mにわたる鋼矢板を敷き、泥濘化により、機動発揮に制限を受けている箇所を補修した。北海道大演習場においては、施設道等の法面を多機能フィルターの活用して補強し、降雨等による道路の損壊を防止する施策を講じた。



装軌車道荒廃箇所整備 (矢臼別演習場)

第5旅団

第5旅団は、隼下部隊の他、第2師団、第7師団、第11旅団、第1特科団の一部の配属を受け、矢臼別演習場及び然別演習場の春季定期整備を担当した。

矢臼別演習場は、日本で最大の規模を誇る演習

場で、道内の師団規模の訓練はもとより、道外からの師団規模の転地訓練を受け入れ、これまで陸上自衛隊の練度向上に大きく寄与してきたが、今後も長期的に訓練環境を充実させ、大規模部隊の実戦的な訓練基盤を整備する計画であり、



土壌を積み弾薬庫を整備 (然別演習場)

今回の整備では、昨年度から引き続き、視界・射界の妨げとなる樹木の伐採を行い、より実戦的な対機甲戦闘の訓練を行うための基盤を整備した。装軌車道の新設においては、同演習場の弾着道、嵐山道、北斗道沿いの樹木を約4700本伐採し、将来的に師団規模の部隊機動を容

易にするための整備として着々と進行させた。

然別演習場は、普通科中隊・小隊規模の陣地攻撃・防衛訓練及び戦車射撃訓練を実施し、より実戦的な訓練を行うための基盤を計画している。今回の整備も支障となる樹木の伐採を行うとともに、今年度から、射場の停弾整備を開始し、射撃訓練を行う上での安全基盤の充実を図った。

第11旅団

第11旅団は、隼下部隊の他、第1特科団、北部方面混成団の一部、北部方面後方支援隊の主力、北部方面通信群、北部方面会計隊の配属を受け、北海道大演習場 (恵庭・島松地区) の春季定期整備を担当した。

北海道大演習場は、中距離の特科部隊の射撃が

可能な演習場であり、より実戦的な射撃訓練基盤の確立のため射撃の観測所の整備を計画しており、観測所が長期かつ安定的に使用できるよう、ネット芝を張り強化させるとともに、観測の視界確保のため支障となる樹木の伐採を行い、今春をもって完成させた。また、第一線部隊の対戦車兵器等の射撃の支障となる樹木の伐採を昨年度に引き続き行い、これにより



至近距離射撃場廃弾回収 (北海道大演習場)



道路側溝整備 (北海道大演習場)

第1高射特科団



高射教育訓練場整備 (北海道大演習場)



溜めます整備 (北海道大演習場)

無口を伴った隊員 (矢臼別演習場)

北の駐屯地 その歩み

第17回 上富良野駐屯地

上富良野駐屯地は、北海道のほぼ中央、富良野地方に位置し、十勝岳を主峰とする雄大な十勝岳



創設時の上富良野駐屯地

察を実施した際、十勝岳山麓に広大な未開拓地を発見し、その後、上富良野町の誘致運動を経て、演習場とともにその設置が決定されています。昭和30年9月1日、当初旭川から第2特科連隊、名寄から第2特車大隊が移駐し駐屯地が開設されました。

昭和三十七年三月に第2特科連隊に代わり第4特科群が千歳から移駐、平成6年に第3地对艦ミサイル連隊、平成7年に第2戦車連隊、平成23年に第2対舟艇対戦車中隊が新編され、方面隊内でも有数の重戦力部隊が所在する駐屯地として現在に至っています。



現在の上富良野駐屯地

最高気温の平均が24度、冬季の最低気温の平均がマイナス12度で、夏の気温差が約36度という盆地特有の厳しい気候でもあります。

また、自衛隊協力諸団体をはじめとした地域の熱心な支援・協力を頂きつつ、地域に密着した活動を行っており、夏季はスポーツ大会やお祭りなどのイベント、冬季は地域の雪祭りにおける雪像製作や各種スキー大会に積極的に協力しています。

己の限界に挑戦！

第2師団、第11旅団においてレンジャーの集合教育が開始

第2師団及び第11旅団は、第3普通科連隊長及び第28普通科連隊長を担任官として5月11日、平成27年度のレンジャー集合教育を開始した。今年度は第2師団では20名、第11旅団では22名がそれぞれ資格検査を合格し、選抜され7月末までの間、己の限界に挑戦している。レンジャー集合教育は、レンジャーとして必要な知識と技能を修得させるとともにレンジャーとしての資質、特に強靱な体力と精神力を養成することを目的とし、約11週間の期間をもって、山地潜入、空路潜入、水路潜入、潜伏・偵察行動、各種想定訓練等を行う。隊員は、これらの訓練を乗り越え、卒業時にはレンジャー徽章を誇りとともに胸に装着し、各部隊に帰還し、レンジャー隊員としての一歩を踏み出すこととなる。全員が無事卒業できるように心から期待する。

また、7月からは第7師団と第5旅団においても同教育が開始される。多くの隊員に挑戦してもらいたい。

明治2年(1869年)4月25日から矢不來にかけて戦闘は散発的になります。両軍は、次の戦闘の準備をしていました。

北海道前史 まほろしの蝦夷共和国 第8回 「箱館攻囲される」

援は無いものの海岸付近に比べ、展開可能な内陸部に多くの兵力を投入して圧迫します。後退する箱館政府軍は、矢不來の北に位置する富川の台場(砲台)で防線を持続しようとするが、守りきれず日暮れまでに、さらに北の有川まで明治政府軍の進出を許してしま

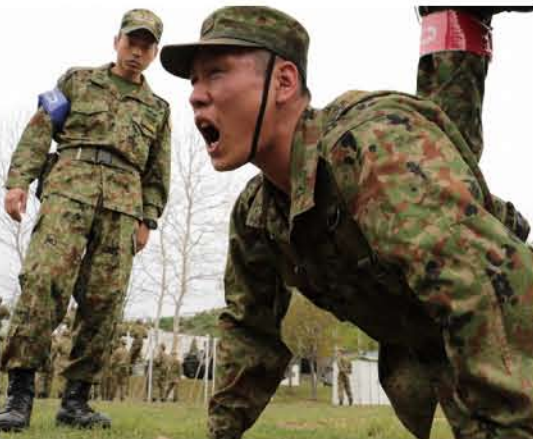
いに不利であり、実質的には箱館港を封鎖されたも同然でした。その夜、艦隊は、蒸気船千代田形を座礁により、喪失し、さらに戦力を低下させてしまいました。

矢不來を突破されたことと、江差からの明治政府軍の攻撃を撃退した二股口の守備隊も孤立を避けるため同日夕には、五稜郭へ向け撤退しました。

翌5月1日、箱館政府軍は、これまで、太平側の森に配置していた部隊を箱館に呼び戻し、兵力の集中を図ります。一方の明治政府軍も二股口で敗れた部隊も前進を再開し、箱館に向かいます。そしてこの日、これまで、箱館政府軍と共に戦ってきた、ブリュネラの仏軍人達が軍艦に乗り箱館を去っていきま



ロープ訓練 (第11旅団: 函館駐屯地)



開始式終了後の体力調整 (第2師団: 名寄駐屯地)

人生に潤いを与える言葉

高に随いて安んぜば、
則ち入るとして得ざるはなし。

(葉根譚 後集・135)

『葉根譚』の語る人生の荒波を渡る秘けつは仏教の「随縁」(縁起の理法に従う)と、儒教の「素位」(分相應に力を尽くす)であるというのです。

高に随いて安んぜば、
則ち入るとして得ざるはなし。

(葉根譚 後集・135)

即ち「いま置かれた場所で怠りなく、分に安んじて生活すれば、どのような境遇に置かれようとも自ら安心を得られない筈はない」というのです。従って、そのためには、縁起の理法に従うという「随縁」といふ境遇に安んじて自分の本分を守るという「素位」の二つが人生航路には不可欠であるというのです。

使徒パウロは「自分の置かれた境遇に満足することを覚えているし、いかなる場合にも対処する秘けつを授けられている」と述べています。

(新約聖書・コリントへの手紙4章11節)

また、『法句経』(ダンマパダ)に「いかなることに満足するは幸である」(331)とあります。

心の健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー 根本和雄

オピニオン

第6期方面隊オピニオンリーダー 橋本 毅



昨年4月より第6期方面隊オピニオンリーダーを拝命いたしております。10年ほど前より私の経営する会社では、毎年、任期満了の若い隊員を採用いたしております。入社後すぐに退職する者もいれば、長年勤務し当社の役職者になっている者もいます。総じて当社が積極的に若い自衛隊任期満了者を採用する理由、それは、若い人が先輩や上司に接する態度や、部下に対する節度を持った接し方ができるようになるまでにはかなりの時間を要しますが、礼節というその部分がしっかり身に付いているからです。

しかし、昔と違って民主的な組織であり、嫌だと思えばいつでも退職できる環境にあるのが今の自衛隊です。そんな中で形だけの礼節ではなく、心から休まできると礼節が身につくのは何故か。その理由を探してみたいと思いきまさまざまな行事に参加させていただきました。

そんな中で、先日戦車射撃競技会を見学させていただいた時に感じたことがあります。戦車射撃の技術と正確さを競う競技ではありますが、決して表に出て賞賛を浴びる競技ではありません。例えば、オリンピック種目のバイアスロンや近代五種など射撃という武力をスポーツに変えることで射撃訓練を職業にしている自衛隊員は脚光を浴びることが出来ます。現にそういった競技の選手ほとんどが自衛隊員が警察官であります。しかし戦車射撃という武力はそういった形で表に出て賞賛されるものではないどころか、世間に対しアピールすることなく行われているものであります。もしかしら世界一の射撃技術を持っているかもしれないのに。

そんな競技会の中で繰り広げられていたものは、チームワークレベルの高さであり、対戦相手にも関わらず惜しみない激励を送っている姿であります。一般社会と違った特殊環境の中、指揮命令系統がしっかりとしていて、一人ひとりが与えられた職務を100%のレベルでこなしていく。そんなことができるのはやはり、上司に対する尊敬、部下に対するおもしろいやり、そして仲間に対する敬意、それらが競技会を通じ自然と礼節となって現れているからだろうと感じました。一つの例でありましたが、この素晴らしい組織をもっと広く伝えていきたいと思

【(株)はしもと代表取締役社長】

平成27年度 幹部候補生1次試験に58人合格目指す！

帯広地本



幹部候補生1次試験（釧路会場）

自衛隊帯広地方協力本部は、5月16日及び17日の2日間、帯広駐屯地、釧路市内、北見市内の試験会場において、平成27年度幹部候補生1次試験を実施しました。

自衛隊帯広地方協力本部管内では、今年度58名が受験し、受験者は幹部候補生になるための第1関門の突破を目指し、試験終了時間いっぱいまで真剣に取り組んでいました。

受験者の一人からは「自衛隊の幹部になることが夢で、精一杯持てる力を発揮しました」と述べていました。

自衛隊帯広地方協力本部は、一人でも多くの受験者が難関を突破することを期待するとともに、これから実施される各種試験に向けてさらなる募集活動を実施していきます。

～予備自衛官を目指して～ 予備自衛官補採用試験を実施

札幌地本



予備自衛官補採用試験（真駒内会場）

自衛隊札幌地方協力本部は、4月11日、12日の2日間、本年度の採用試験の皮切りとなる平成27年度予備自衛官補採用試験を札幌駐屯地及び真駒内駐屯地で実施しました。

当日は、一般公募・技能公募合わせて158名（うち女子35名）の受験者が将来の予備自衛官を目指し筆記試験、口述試験、身体検査等を真剣な面持ちで受験していました。

試験を終えた受験者からは「1日でも早く予備自衛官になって社会に貢献したい」などの声が聞かれました。

自衛隊札幌地方協力本部は、今回の受験者の中から、より多く予備自衛官補が採用され、教育訓練を通じて予備自衛官となり、国防への情熱を持ち、社会に貢献する新しい力となることを期待しています。

複合商業施設での市街地広報

函館地本



大盛況の自衛隊ブース

自衛隊函館地方協力本部は、5月5日、6日の2日間、市内港町にある複合商業施設「ポールスターショッピングセンター」で行われた「ゴールデンウィークフェスタ」で、広報ブースを設置し自衛官募集及び自衛隊活動写真展示等の広報を実施しました。

イベントには約10,500人が来場し、派遣活動写真の展示、広報ビデオの放映、ミニ制服の試着などの自衛隊ブースの各コーナーに多くの人が訪れました。

特にミニ制服は家族連れに圧倒的な人気で、試着と記念撮影の場所では将来制服を着る可能性のあるチビッコたちが大盛況でした。また、募集広報で来場した中・高・大学生などにパンフレットやグッズを配布してアピールし、自衛隊のさまざまな職種等の説明では、学生たちも関心を持って耳を傾けていました。

平成27年度 第1回陸士就職補導教育（企業研修）実施

旭川地本



基礎工事現場の見学前に説明を受ける隊員

自衛隊旭川地方協力本部は、4月15日、任期制隊員に対して、企業研修を実施しました。

企業研修には、北海道新幹線や東京オリンピック等により求人がさらに多くなることが予想される建設業を選定し、任期制等退職予定隊員15名が参加しました。隊員は、旭川建設業協会の会議室で、建設業の紹介DVDを視聴した後、建築大工・鉄筋施工・型枠施工の各業種について企業側から説明を受けました。

その後、北彩都団地新築の基礎工事の現場を見学しました。小雨の降る中での見学でしたが、普段は見ることのできない基礎部分の施工現場を研修し、参加した隊員は、現場監督者等に積極的に質問をするなど建設業界への関心がある様子で、これらの仕事の内容を理解し、再就職準備の糧とすることができました。

北部方面隊イベント情報

6月・7月

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location. Lists various anniversary events for units in the northern region from June to July.

※行事は都合により延期または中止される場合があります。

各地方協力本部募集等広報情報

6月・7月

帯広地方協力本部管内

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location. Lists recruitment and public relations events for the Oshima region.

函館地方協力本部管内

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location. Lists recruitment and public relations events for the Hakkai region.

演奏会のお知らせ

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location. Lists upcoming musical performances.

編集後記

桜の開花も例年より早く、大型連休には見頃を迎えました。5月の初旬はまさに「五月晴れ」の言葉どおりの天候でした。この機会に北海道の美しい風景を家族とともに楽しめた方も多くいることでしょう。◆五月晴れは、元来、旧暦の6月の梅雨の合間の晴れ間を表す言葉だそうです。現在では、5月の晴天を表現する使われ方も多くなっています。「五月雨」という言葉もあります。旧暦の6月の長雨が続き、5月に降る様子を見た言葉です。季節と天候を見事に表現し、現在も使われているこれらの言葉を耳にする度に、日本語の感性豊かな表現に感動し、日本人であることを誇りに思っています。◆「五月蠅い」と書いて「うるさい」と読む言葉もあります。5月の蠅は特に元気がよいので、このように書くそうです。が、「騒音」の意味とは違い、皆様の中にも親や上司を「うるさい」と感じた経験をした方もいることでしょうか。怒られ指導される度、煩わしく感じ敬遠しがちな存在でしたが、今思えば、道を外れそうなる時、妥協しそうな時に「うるさい」指導してくれてありがたかったです。◆「うるさい」と感じた親や上司などのおかげで今の自分自身が存在することを思えば、時には子供や後輩のために「うるさい」存在であることも必要ではないでしょうか。また、これまでの恩に報いるため、休みを活用し、普段出来ない親孝行することも忘れないで下さい。